

タウンミーティング議事録

1 日時

令和4年8月11日（木）午前10時00分から正午まで

2 場所

オンライン

3 出席者

井崎市長、若林総合政策部次長

4 来場者数

7名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

雑草の問題で個人的に感じることをまとめました。雑草が繁茂することで見通しが悪くなったり、通行の妨げになったり、ユスリカなどの害虫の発生につながったりします。

雑草問題は毎年のように同じところで発生し繰り返しており、自治会の方でも対応を検討したりしていますが、地権者の把握等は自治会等では困難です。

先週、改めて雑草が繁茂している箇所の写真を撮ってきたのですが、木の枝が電線やカーブミラーにかかっており、安全面に問題があるものも出てきています。

富士見橋付近は草が道に飛び出しており危なく、坂川土手付近では散歩できる道が繁茂しており隠れてしまっています。松戸側は綺麗に舗装されているのにもったいなく感じています。芝崎小鳥の森公園は「自然のままに」という趣向であるならばよいのですが、木が茂りすぎて昼間でも暗く、ちょっと怖いと思いました。江戸川の堤防上は、自転車がすれ違くと道脇の草に接触してしまうくらい繁茂しています。

そこで提案なのですが、①雑草問題について長期管理できる様式で記録する②地権者情報や費用負担について明確にする③雑草除去したときに防草シートを使用し、繰り返し繁茂しないようにする④広報ながれやまで適正管理に関する啓発記事を掲載する⑤公共施設などではそもそも雑草が繁茂しない状況を作ることなどができればいいと思います。

また交通問題になるのですが、キッコーマンアリーナ付近の交差点は一部ガードレールにより2車線から1車線に減らされてしまっているところがあります。工事中であることから車線を減らしているのではないかと思います。ガードレールを外してしまえば左折用レーンとして十分に活用でき、スムーズな交通に寄与できるのではないかと思います。

A 市長

流山市が管理している道路などについては、定期的に草刈りを行っています。ただし、春から秋にかけては、草が伸びやすい時期ですので、刈る直前のタイミングは、かなり伸びてしまっているというのは事実です。

先ほど見せていただいた写真の中は、民地が多く見受けられました。民地につきましては、長年同じ状況が続いていたり、地域の方々からご意見をい

ただいている場所などであれば、市としても把握はしておりますので、地権者に適正な管理を行うよう連絡しております。

これに対して地権者の方からお返事がいただけない場合は指導等を行い、それでも草の刈り取りに応じてくれない場合、行政代執行を行い、流山市が草を刈ったうえで地権者の方に費用を請求しています。

まれに連絡先が不明になってしまうような方もいらっしゃいます。地権者の方の反応にもよりますが、適正な状態となるまで約3ヶ月、長い場合には半年程度かかるケースもあります。

歯がゆいところではありますが、民地となると、市が勝手に草刈りを行うわけにはいかないので、先ほど申し上げた指導等といった、法律に基づいた適正な手続きを踏んでいく必要があります。

もし何とかしてほしいと言う場所がございましたら、市にご連絡をいただければ、適正な手続きを踏みつつ対応させていただきます。

また、先程の写真の中には、国や県が管理している場所もありましたが、このような場所につきましても、情報をいただければ、市の方から国や県に要望を上げてまいりますので、後日、先ほどの資料を共有願います。

最後に、ご指摘いただきましたキッコーマンアリーナ付近の交差点につきましては県で施工中の道路となるため、流山市が独自に決めることができません。

千葉県公安委員会が安全確保の観点から狭くしておりますので、工事の完了まで今しばらくお待ちいただきたいと思います。

Q 市民

「母になるなら、流山市。」というフレーズは結構なのですが、私としては「納税者になるなら流山」と言えるように、色々と行政サービスを充実させていきたいと考えています。

広報紙では様々なイベントが掲載されていますが、そのほとんどが子供向け、もしくはお年寄り向けとなっており、平日の日中しか開催しておらず、子連れじゃないと参加できないといったような、現役世代が参加しにくいものが多いと感じます。

私の世帯は子供がいなく、妻と2人共稼ぎで相当額の住民税を納めていますが、行政サービスで恩恵を受けているのはごみの収集くらいです。

税金は均等に振り分けられるものと言うことは理解しているのですが、納

税額に合った行政サービスを受けているかと考えた時、率直に申し上げると、非常に不公平感を感じてしまいます。私としては、もっと現役世代に対してのサービスを充実してほしいと思います。

例えば平日の１９時から２０時位か土日などに、ビジネススキル向上講座等を開いていただけると良いかなと思います。

また、お子さんがいれば学校のＰＴＡなどの繋がりで自然と知り合いになることもあると思いますが、お子さんのいない方々のことを考えると、近隣の方と交流が出来るようなイベントもあるといいなと思います。

冒頭に市政へのお問い合わせがあるというお話もありましたが、私も何度か投稿したことがあります。しかしながら、回答が初めから取り付く島もないと言う回答が多いので、せっかくこういったものを設けているのでしたら、なるべく前向きな方向で回答いただけるといいなと思います。

A 市長

子育て世代の方あるいは高齢者の方へのサービスが多く、現役世代は少ないというご意見ですね。

人口減少や資産価値が減少し続けている世の中で、流山ではマーケティング課やまちづくりの専門部隊を通じて、上質な住環境や快適な都市環境の整備を行うことで、人口や資産価値が上昇しているという状況を生み出しており、このようなまちづくりは行政の１つの役割だと思います。

一方で、公的なサービス、特に福祉に類するようなものについては、民間ベースでは採算が合わないものが多く、行政がしっかりと支えていくことが必要になってきます。このため、子育て、障害者支援、高齢者支援といったサービスは、皆さまの税金を使い、必要な方々を支えていくことが行政の非常に大きな役割であると考えています。

このため、万が一、皆さんが事故や病気で福祉的なサービスを必要になったときに、対応するサービスを確実に提供できる状況を作り出すことがとても大切です。

例えば、特別養護老人ホームなどは、２０年前は定員に対して２０倍以上の入所待ちの方がいらっしゃった時期がありますが、現在の入所待ちはずかであり、新しい施設が出来るとほとんど０となります。

公的なサービスが必要ではなく、元気に活躍されていらっしゃるという方はその状態を維持していただきたいと思いますが、万が一の時に備え、流山

市としては、市民の皆さまをしっかりと支えられる体制を作り、現在足りない部分の拡充を行っているところです。

また近隣でのお友達づくりという所では、シティセールス用フェイスブック「moricom」を通じて市の魅力を発信するほか、生涯学習センターの中にある流山市民活動推進センターでは、市民活動についてのご紹介をさせていただいており、退職が間近に迫り、「何か流山市内で自分の興味のあることや自身の経験を生かして活動したい」と考えている方に向け、NPO活動や市民活動に関する様々な活動をご紹介します。

気軽に「こんな活動してみたい」「どんな団体があるのだろうか」といったことからご相談していただき、ご自身の経験などを生かせるような活動や仲間を見つけていただければと思います。

また、広報ながれやまでも様々なグループの紹介を行っていますので、ぜひご参加していただければと思います。

Q 市民

昨日もNHKなどで流山市の人口増加率が1位という喜ばしいニュースを見かけましたが、インフラ整備が追い付くのかという心配があります。

つくばエクスプレスの8両編成化に着手していただいているみたいですが、6両編成のままで人口が増えれば移動が間に合わない部分も出てくるかと思っています。

人を呼び込むばかりでなく、インフラ整備もバランスよく行っていただくことを希望させていただきます。

A 市長

ありがとうございます。私も同様の考えです。

様々な地域から参加してもらえるイベントとしては、ちょうど昨日からおたかの森駅前広場でナイトカフェを実施しています。今年は新型コロナウイルス感染症により、少し規模を縮小して実施しておりますが、こちらはお友達同士やご夫婦、ご家族、ご親戚など様々なタイプの方がいらっしゃっています。

つくばエクスプレスの8両化は、つくばエクスプレス沿線自治体の協議会で、10年以上前から要望を行っており、その結果、2030年代前半を目途に供用を開始するというお話をいただいています。現在、コロナの影響で

在宅勤務が非常に増えており、移動する方が減っているため、昔の常磐線のようなとんでもない状況になる事は避けられそうと考えていますが、私としては、それでも少し遅かったのではないかなと感じているところはあります。

また、現在人口が20万人を超えていますが、いつまでもこのペースで増加していくわけではなく、21万人台ほどでピークアウトすると予測しており、今のような勢いで伸び続ける事はないと考えています。

流山市の適正な人口規模としては21万～22万人程度であると考えており、このような見通しの中で、しっかりとインフラを整備していきたいと考えております。

Q 市民

以前タウンミーティングに参加したことがあるのですが、その時は個人的には、すごくモヤモヤする場だなと思ったことを記憶しています。

そのような中、今回のオンラインタウンミーティングの場を見てみると、だいぶ変わってきているなと感じるところがあり、変化を感じられるというところは、参加する側としてもすごくありがたいなと思います。

何をするにしても優先順位と言うものはあると思うのですが、その優先順位を判断する中で、こういう場で挙げられた声を拾いつつ意思決定をされていると思うのですが、声が伝わりきらないこともあるのかなと感じます。

今回のようなオンラインのタウンミーティングでは若者が多く、公共施設で行う地区別タウンミーティングなどはご年配の方が多いなど、年齢層変わってくることがあると思います。

地区別タウンミーティングでは冒頭に市長から市政に関する報告があったかと思いますが、今回のオンラインタウンミーティングではいきなり質疑応答から始まっています。

そこで感じたのが、これからミーティングを行うにあたり、事前にインプットがない状態でやりとりが始まってしまうと、よくわからなくなってしまうということがあるのではないのでしょうか。

例えば、会社でミーティングを行う場合、「事前にこの資料を読んでおいてくださいね」というものがあり、前提知識を得たうえで会議に臨みます。

そこで、予定している会議内容についての動画を事前に配信するなど、インプットできる仕組みがあれば、より有意義な意見交換ができるのではないのかなと思います。

また、広報ながれやまのお話が何度か出ていますが、若者にはあまり情報が届いていないと感じられますので、そこは検討していただいたほうがいいのかなと思います。

公民連携についても、「市の職員が育たないと公民連携は難しい」と言われたことがあったのですが、育ってから連携するのではなく、一緒に育てていくという感覚も必要なのかなと思います。

もっとフラットに、市民が一緒になって仕事について考える場を作るということを検討してもらいたいなと思います。

A 市長

タウンミーティングへの問題提起ありがとうございます。オンラインタウンミーティングは今回が3回目という事と、事前に質問をお寄せいただくという形でスタートしているため、会議冒頭より頂戴したご質問へのお答えする形をとっております。しかしながら、今ご提案いただきましたように、より有意義な意見交換を行うという観点では、事前にテーマを絞り、テーマについての事前知識を得ていただいた上で会議をスタートするなど、様々なバリエーションがあってもいいのかなと思います。

また公民連携についても、一緒に育っていけるような仕組みを考え、検討を重ねていくことは、とても重要だと感じました。

公民連携を具体化していくということについて、部署によっては少し慎重な考えを持つ部署もあるかと思いますが、やれるところから実績を作りたいと思います。

また、若い方への情報発信につきましても、今年の9月1日より、関心がある情報分野を事前に登録いただき、LINEを通じて関連する情報を発信するという取り組みを実施いたします。

今までこの準備を進めてきたのですが、このLINEの取り組みを広報でお知らせしたとしても、そもそも広報を読んでいない若い方には到達せず、どうやって多くの若い方に知っていただくかという課題もあります。

こちらにつきましては、私のフェイスブックやmoricomでお知らせしようと考えていますが、ぜひ、皆さまにもシェアしていただければと思います。

新しい仕組みを作ってもそれを発信する媒体が限られているので、とても難しい課題だと感じておりますが、広報には安心安全に関わる情報も含まれ

ていますので、安心メールを活用し、この取り組みについて周知していくことを検討しています。

市民の皆さまと市役所職員の関係を近づけ、一緒にいろいろなことを変えていく仕組みづくりについて工夫していきたいと考えております。

Q 市民

ありがとうございます。過去にどのような議論がなされていたかということへの視認性も低いと感じるので、参加する方にわかりやすくするということは非常に大切なことだと思います。

L I N Eというツールもすべての人が使っているというものではありませんし、複数のツールを活用するということを前向きに検討できるといいのかなと思いました。

最後に、「検討します」という返信については、「こういったことを始めました」とか何かしらのフィードバックがあると嬉しいと思いますので、タウンミーティングの場で出た提案についてできる限りフィードバックを検討いただけると幸いです。

Q 市民

まず、まちづくり達成度アンケートの実施方法や対象者の選定の改善に関する提案となります。

アンケートの回答者の年齢分布を見てみると42%が60歳以上となっていますが、実際の人口分布では60歳以上は33%となりますので、アンケートでは60歳以上の意見が大きく反映されすぎてしまっていると思います。実際の数値とは乖離しているので、実態を反映できていないアンケート結果となってしまっているのではないかなと思っています。

仮説として、若い人は働いていて時間がないため紙のアンケートに答えにくいというものがあるのかなと思います。

対応策として、インターネットで回答できるようにすること、もう一つは高齢の方に比べて若い方、特に10代のアンケート回収率がすごく低いので、回収率を試算した上で、年代別に配布する数を調整することが必要なのではないかと思います。

続いて、おたかの森駅南口公園の芝生についてですが、クラピアなどのグランドカバープランツを採用してはどうかという提案です。

きれいな公園が故に、頻繁に芝の張り替えを行っており、市税の観点からも大きな負担になっているのかなと感じます。クラピアなどのグランドカバープランツならば耐久性も高いのでコストパフォーマンスも良いのではないのかなと思います。

最後に、十太夫近隣公園の近くに交差点は緩やかなカーブになっており、非常に見通しが悪く、子どもが危ないと思うので、信号機を設置してほしいと思います。

A 市長

まちづくり達成度アンケートの調査の仕方と人口構成の差につきましては、市としてもアンケートの回収率も年齢によって2～3倍くらいの差があることを認識しており、総合計画を改めた令和2年度より、単純集計のみではなく、人口構成の比率に合わせた調整を行うウェイトバック集計を行っていました。

しかしながら、この度改めて確認したところ、皆さまに公表していた数字は、ウェイトバック集計により人口構成比を反映させた数字ではなく、単純集計した数字を公表していることが判明いたしました。

このため、即刻、令和2年度からの数字をウェイトバック集計のデータに差し替えるとともに、令和4年度以降は確実にウェイトバック集計のデータを公表するよう指示いたしました。

集計の違いにより大きな違いが出ていた項目として「学びたいときに学べる環境が整っていると思う市民の割合」の項目がありますが、単純集計では53.4%なのに対し、ウェイトバック集計では50.9%となります。

また、「市内がバリアフリーだと感じる市民の割合」の項目では、単純集計では44.8%なのに対し、ウェイトバック集計では47.8%となります。

仮説ではありますが、高齢者の方が多くお住まいなのが既成市街地なのに対し、若い方は区画整理後の場所に住んでいるため、バリアフリーができていると感じることが多いのかと思います。

この他にも集計方法の違いにより差が生じている項目がございますが、ほとんどは1%以内の誤差でした。より正確なデータをお届けするという観点から、今後はウェイトバック集計のデータを公表してまいります。ご指摘ありがとうございます。インターネットによる回答などについても、検討してまいります。

次に、十太夫近隣公園付近交差点への信号機設置についてですが、信号機は千葉県公安委員会が設置の決定を行うのですが、市としても、危険箇所への設置要望を毎年挙げており、当該交差点につきましても、平成30年より継続して要望を挙げている場所となります。

千葉県公安委員会では危険な場所から優先的に設置しており、毎年大体3ヶ所くらい設置されています。信号機が設置され、危険な場所が少しずつ減ってきていると考えると、当該交差点の優先順位も相対的に上がってきていると思います。

ちなみに、信号機は時間がかかるため、先に横断歩道をつけるというやり方もあると思うのですが、それについてはどのようにお考えでしょうか。

（信号機がベストだが、横断歩道を設置することで少しでも危険減らしつつ、信号の設置を待つというものの良いという意見あり）

ありがとうございます。

最後に、おおたかの森駅南口公園の芝生についてですが、先ほどお話に上がりましたクラピアの導入を検討したことがあります。

クラピアは踏んでも大丈夫というメリットがある反面、根が深くまで根付くので、いざ交換を行う必要が出てきた際には深くまで土を掘らなくてはならないという課題もあり、市としては、現在、芝を植えるという方向で進めており、ちょうど明日、芝の養生を開放する予定です。

しかしながら、今回の芝の状況を注視し、芝が駄目になるということを繰り返すようであれば、税金の無駄遣いということになりますので、専門家を導入し、他のグランドカバープランツの導入を検討する必要があると考えています。

Q 市民

義務教育、女性のキャリア支援、流山市の財源確保についてお伺いいたします。

流山市は子どもが増えており、5年前は保育園に入れるかなと心配だと思ったこともありましたが、現在はほぼ入れるような状態まで整備していただいており、市の方々に感謝しております。

私の子どもは来年300人ぐらいの予定の小学校に入学する予定ですが、人数が多すぎて、義務教育における各学校間での差が出てきてしまうのではないのかと心配しております。

先生方の負担もすごく大きくなってきており、ニュースなどでは部活動の顧問を専門の方に依頼すると言うような動きがあると聞き及んでいます。

今後、社会保障制度が崩壊することも無いとは言い切れない状況の中で、子どもたちには生き抜ける力を身に付けてほしいと強く思っていますので、そのような能力を身に付けられるような取り組みに力を入れてほしいと思います。

2点目として、流山市は多くの子育て世代が転入してきており、結婚や出産のタイミングで仕事を離れてしまうという人もたくさんいらっしゃると思います。そういった中で子どもが高学年になってくるにつれ、職場に復帰したいと思うお母さん方がすごく多いのかなという印象を受けます。

現在、流山市では創業支援などをされているかと思うのですが、子育ての間全く働いていなかった人がいきなり創業するのは少しハードルが高いかなと感じていますので、創業以外の部分でも取り組みを広げていただけると嬉しいです。

最後に財源の確保についてですが、人口の増加に伴い税収自体は増加していると思うのですが、それに伴い子どもの数も増えてきているので、小学校を作ったり公園を作ったりと、子育てに投入される税金も多くなっていると思います。そこで、どうやって今後の財源を確保していくお考えなのかをお伺いできればと思います。

A 市長

学校整備計画について、文部科学省では3年後の子どもの増減の推計値により補助を出します。しかしながら流山の場合、今後約10年は子どもが増え続けていきますので、文部科学省の補助の基準となる3年後の推計値に基づき整備するのではなく、市独自にその後の3年の想定値を算出し、合計6年分の推計値・想定値をもとに学校の新增設を計画しています。

また、学校生活では基本的に担任の先生が1つのクラスを受け持ちますが、流山市の場合では、仮に国や県の基準よりも児童が多くなった場合には、担任とは別に、担任サポート教員や担任サポート指導員というものを配置する制度を整えています。

また、国際社会の中で、例えば流山の子どもが「英語ができないために日本で働かざるを得ない」ということではなく、「英語ができて海外でも日本でも働ける」という状況で、自分の考えに基づき進路を選択できるような子ど

もになってほしいと考えていますので、国が小学校に英語の授業を導入するのに先駆け、流山市では、約10年前より、英語の授業を導入してまいりました。

英語が好きになったという子どもが多かったようであり、英検3級相当の学力を持っている中学生の割合を調べる調査があるのですが、全国平均を上回り、流山は6割という高水準を維持しています。

こういったことも取り組みのうちの一つにすぎませんが、流山の子どもの可能性を作り、将来、様々な選択肢を選べるような人生を歩んでいただきたいと願っております。

キャリア教育につきましては、とても大事だと認識しているところですが、小学校でできる事と中学校でできることは変わってくるのではないかと思います。

事前質問の中でキャリアコンサルタントを入れてみてはどうかというご提案がありましたが、中学生がキャリアコンサルタントの話を聞くことが、人生の方向性を決めるにあたりどの程度寄与するかということもよく検討しないといけないと思います。その点については、どのように分かりやすく子どもたちに伝えていけばいいのか、教育委員会とよく相談していく必要があると考えています。

現在流山市では、小学校の時は地元のスポーツ選手や企業の方からお話を伺っており、中学校では、1年生の時は様々な専門職の方の講演を聞く会、2年生では職業体験学習を行い、3年生の進路指導へとつなげています。

こういったキャリア教育をどの程度まで広げていく必要があるのかというところについて教育委員会とよく相談する必要があると思いますが、私としてはできるだけ広げる方向で検討していきたいと考えています。

次に、育児後の社会復帰についてですが、長く仕事から離れてしまい、何から始めればいいのかわからないという方向けのものとしたしましては、ちょうど広報ながれやま8月1日号に掲載したのですが、キャリア支援啓発講座というものがあります。こういったものを受けていただき、元の職場に戻ったり、あるいは創業するということを考えていただければと思います。

最後に、流山市の財源確保についてですが、流山市では若い方々に流山を選んでいただくという戦略のもと、長く取り組みを行ってきた結果、多くの若い方に転入いただき、働き盛りの現役世代の方から納税をしていただいています。

このほかに地価の上昇による固定資産税や、流山インター付近の大きな物流センターなど、企業の進出による税収も大きいものとなってきております。

人口構成的には流山市は0歳から15歳の方が増加していることから、保育園や学校などの新增設が続いているわけですが、こちら先ほど申し上げた通り、6年先までの児童推計を見越して計画を立てております。まだしばらくの間は校舎の増設等はあるかと思いますが、学校の新設については、令和6年度に開校するものが最後となってくるのかと思います。そういった意味では学校建設という大きな支出については、現役世代の方がまだ40代の間に終わり、財政的には非常に健全な状態となります。

流山市が財政的に気をつけなければいけないことは、人口が増えているからといって、闇雲に公共施設を増やさないということです。例えば、十数年後に子どもの数がピークアウトしてくることを見据え、学校の空きスペースを有効活用できるよう公共施設を入れていくといった仕組みづくりを進めています。

ちなみに、流山市は20年前までは東葛地区の中でも財政状況が悪い状態でしたが、現在では改善されています。ただ、お金持ちになったということではないので、今後も引き続き、むやみに公共施設を作らず、常に工夫をしながら財政を健全に保っていくということが大事だと考えています。

Q 市民

キャリア支援について、ハローワークなどでは宅建やパソコン講座といったような実務に結びつく講座を行っていますので、そういったものを主に実施してくれたらいいなと個人的には思います。

キャリア教育について、グローバルに活躍できる教育はとても素敵なことだと思います。しかしながら、企業がどのような新卒社員が欲しいかという質問では、語学力よりも社会性を身に着けた学生を欲しがっているというデータもあり、名古屋の方ではキャリアコンサルタントが常駐している小中学校があり、その結果、子どもたちの学習意欲が向上し、成績に反映されているそうです。

学力の向上のみならず、可能性を広げるという観点にも寄与できるものと思いますので、ご検討願います。

A 市長

ありがとうございます。主旨はよく理解できました。

Q 市民

財政のお話がありましたが、白みりんミュージアムや道の駅の開発についての話があると思いますが、これらのものは市税からの支出が伴うものなのでしょうか。それとも民間と連携して運営していくというものなののでしょうか。

A 市長

白みりんミュージアムについては、半額が国の補助であり、4分の1が企業版ふるさと納税、残りの4分の1を市が支出するといった状態です。

Q 市民

それは投資の部分だと思うのですが、年間の運営費などはどのようなになっているのでしょうか。

A 市長

最終的には運営費の部分のついても市税の支出はあります。しかしながら、ただ支出するのではなく、目標は黒字化することです。

Q 市民

道の駅はどうでしょうか。

A 市長

流山市としては道の駅の構想はありません。流山インターチェンジ付近に開発計画の話がありますが、こちらは民間事業者による事業となります。

Q 市民

流山市いじめ対策調査会の会長が辞任され、前回の会議でも選任に至らず、現在も不在の状態です。市長との面会を希望していますが、一向に会っていただかず、教育行政は、市長部局と教育委員会は別れている部分だということとは分かりますが、このような部分は、市民との対話を目指す市民政治とか

け離れているのではないのでしょうか。

流山市は令和３年度にいじめ重大事態の再発防止策を公表しており、市政全体に関わる問題だと思うので、誠実に対応いただきたいと思います。

総合運動公園のごみ問題について意見があるのですが、現在、ボランティアの方や自主的に市民がごみを拾っていますが、こういった市民の善意により回収されたごみを市が処分してくれないのはおかしいと思います。過去に生涯学習センターに持ち込んだところ、指定管理者が違うことから受け取ることとはできないというお話でした。

公園内にゴミ箱を設置しないということならば、近くの公共施設などで回収はできないのでしょうか。

A 市長

過去には、公園のごみ箱に家庭ごみが捨てられるという苦情があったことから、公園内にはゴミ箱を設置しない方向で考えています。

お話しに出てきました生涯学習センターは、指定管理者により運営を委託していますが、各指定管理者はごみを事業ごみとして費用をかけて処分することから、管理施設以外のごみを受け入れるということは難しいかと思います。

(※注釈：ボランティア等で総合運動園のごみを回収いただいた場合、みどりの課までご相談ください。)

Q 市民

総合運動公園バスケットゴールのネットについて相談したところ、早速直していただきありがとうございます。ゴール付近の注意書きにはネットが切れるのでダンクシュート禁止ということが書かれていますが、実際には雨風による劣化などで切れているのだと思います。

こういったように、現場の実状と市職員の考え方に乖離があると思うので、しっかりと現場を見た上で市政運営を行っていただきたいと思います。

時間を過ぎてしましましたが、意見を聞いて対話を行うことが市長の目指している市政ではないかと思いますので、意見としてお伝えさせていただきました。

Q 市民

名古屋から転入してきてまだ半年ほどなのですが、流山市は市民を含め、まち全体が考え、取り組みを行うことが多いなということを身近に感じており、大好きになりました。そこで少しでも何かできないかなと思い、本日はこの会議に参加させていただきました。

市では色々な取り組みをされていますが、なかなかそれを知るきっかけがないので、それを工夫していただけたらと思います。

例えば、市の手続きを行った時に「こういった取り組みがあるので登録してください」といったように、まとめて情報を渡してもらったりできれば良いきっかけになるのではないかなと思います。

ボランティアなどでも、例えば市がSNSやITに疎いというところがあれば、「〇〇の部分について協力してくれる方はいませんか」と発信していただければ、協力したいという人は多くいると思いますので、気軽にきっかけを発信していただければと思います。

A 市長

転入時に安心メールの登録のお願いや、いくつかの情報をパンフレットにしてお渡ししていますが、流山市をよく知ってもらうために「こういったものがありますよ」という情報もこれからまとめていければと考えています。

また、先ほど話に挙げりましたように、これからLINEによる情報発信もスタートいたしますが、このLINEによる情報発信や広報ながれやまなどで気になる情報がありましたら、ぜひ皆さまにおかれましても、発信して情報を広めていただきたいと思います。私がSNSなどで情報を発信しようとすると、すでに私よりも先に情報を発信してくれているような流山ファンの方もいらっしゃいます。

本当に次から次へと流山の情報を発信してくれている方が何人もいらっしゃいますので、多くの方に情報を共有いただき、流山ライフを楽しんでいただけることを願っております。